



平成18年 4月17日

ここのえ町

議会だより

第73号

発行/九重町議会

〒879-4803
大分県玖珠郡九重町大字後野上8-1

☎ 0973-76-3814

編集/議会広報編集委員会

印刷/尾花印刷有限公司



春爛漫、きれいに咲きほこる花

3月定例会

- **第1回定例会** 18年度予算関係 P.2
- **人事案件・新年度予算質疑 Q&A** P.3
- **陳情・請願** P.4
- **指定管理者制度など** P.5
- **一般質問 7名** P.6～12
- **私のひとこと**
 - 東飯田 後藤久美子さん P.13
 - 南山田 小田原克也さん
- **こんな町にしてほしい** 南山田小学校6年 武石 梨花さん P.14

第一回定例会

平成18年度第一回定例議会は3月8日から23日までの16日間開催され、議案73件、発議5件、陳情3件、請願2件、継続審査1件を審議いたしました。
本町議会上最多の73議案を議決。

〈九重町一般会計当初予算〉

62億1千5百万円

〈特別会計〉

◎国民健康保険会計	13億4千69万2千円
◎水道会計	1億9千8百38万6千円
◎同和住宅資金貸付事業会計	1百12万8千円
◎飯田高原診療所会計	8千5百75万2千円
◎老人保健会計	16億8百80万9千円
◎介護保険会計	10億8千3百38万1千円
◎介護サービス事業会計	4千3百41万3千円

18年度 予算の主な事業

- ◎地域イントラネット基盤施設整備事業
(光ファイバー)
● 2億円
- ◎多目的グラウンド整備事業(人工芝工事)
● 1億8千万円
- ◎宝泉寺栗原線BPI工事費
● 1億5千7百万円
- ◎鳴子川溪谷及び周辺整備事業
● 6千万円
- ◎農地災害復旧費
● 2億3千8百万円
- ◎道路橋りょう災害復旧費
● 6千8百万円
- ◎泉水グリーンパーク専用水道改修事業
● 2千6百万円
- ◎梅ノ木集会所建設事業
● 1千4百万円

教育委員会委員

佐藤住子氏の

任命に同意



現教育委員の佐藤住子氏の任期が、平成18年3月25日で任期満了となるために、同氏を満場一致で再任に同意。

固定資産評価審査委員会委員の選任について

佐藤桂次郎氏の

選任に同意



現固定資産評価審査委員会委員の松木重徳氏が、平成18年3月26日で任期満了となるために、同氏を満場一致で選任に同意。

新年度予算質疑

Q & A

Q 地域振興事業費で時間外手当が昨年より増額となっているがなぜか。

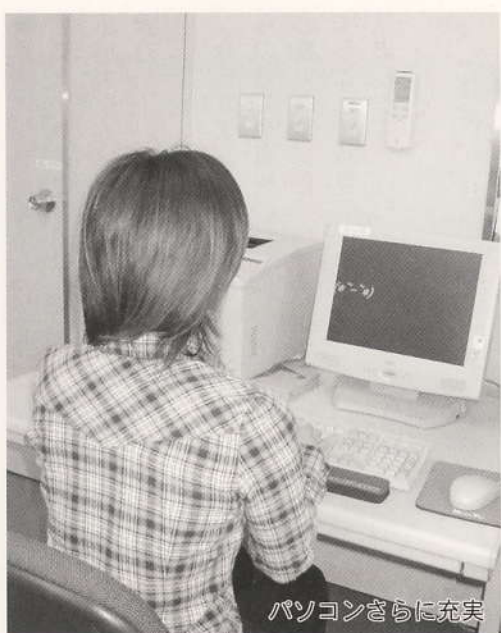
A 自律推進計画やふるさと祭り等を集めたため、全体的には減額している。

Q 総合行政情報推進事業費の電算SE派遣委託が昨年より約百万円増えているがなぜか。

A システム変更に伴うもので増額となった。

Q 同事業費の備品購入費が昨年比較で約百50万円増となっているが。

A パソコン35台、サーバー、コンピューターソフト等を購入するものである。



パソコンさらに充実

Q イントラネット、各家庭まで引くと言うが、現状のNTTの施設と重複し再度、予算化することになるのではないか。

A NTTの施設で26カ所、今回は各家庭に配信分と映像ケーブルを合わせたもので、今回は容量を大きくするものである。

Q 保育園施設費で約2億円計上されているが、国から措置費はどの位くるのか。

A 三位一体改革により、現在は約1千万円程度で、一般財源の持ち出しが約1億7千万円である。

Q 集会所建設事業で梅の木集会所は、農振の関係で建設断念となり、今年また計上されているが、一行政区に2カ所はいかがなものか。

A 17年に農振の解除が出来たので本年計上した。一行政区に数カ所建設されている所もあるが、今後は検討して何らかの基準等を考えたい。

Q 温泉館の入場料収入と管理費等の支出が逆転している。今後いかに収入を増やして行くのか、改善策は。

A 改善策を検討し改める点は徐々に取り組んでいるが、即、効果が出ていない状況である。今後引き続き努力したい。

みなさん方の陳情や

請願はこうなりました。

陳情

●鹿伏区長 須藤良一氏
外2名からの鹿伏公民館
の改築については。

雨漏り等による屋根裏
や床下の老朽化は著しく



老朽化が著しい鹿伏公民館

危険な状態でもある。今
日までの管理面の悪さも
あるが、現状を見る限り
早急な改築が望まれてい
ることから、**採択とする**
ことで意見の一致を見ま
した。

●元文化財調査員 小野
喜美夫氏からの大吊り橋
広場に文人顕彰記念碑の
建立については。

今後さまざまな角度か
らの意見や資料の収集が
必要であり、**継続審査と**
することで意見の一致を
見ました。



●日出生の衛藤洋次氏外
1名からの日出生台演習
場での米海兵隊の実弾砲
撃訓練に関する意見書の
提出については。

米軍訓練の拡大阻止や
情報の伝達、実弾砲撃訓
練の縮小、廃止すること
に理解できることから**採
択**とすることで意見の一
致を見ました。

請願

●善応寺堤下流対策協議
会会長 本松清氏外29名
からの町有溜池の老朽化
に伴う修復工事について
は。

現在、溜池については
農業用水として利用して
おらず、地元も水利権の
放棄をし、放置されてい
る状況で、増水時の危険
を考えると何らかの対応
が必要であることから、
採択とすることで意見の
一致を見ました。



米海兵隊が実弾砲撃訓練に使用する日出生台演習場

●県教組玖珠支部執行委
員長 佐藤明彦氏外10名
からの義務教育費国庫負
担制度の堅持及び次期定
数改善計画の実施を求め
る意見書提出については。

国の負担が1/2から
1/3に変更され、地方
財政に負担をかけること
は必至で、さらに制度の
全廃を求める声もあり、
義務教育の根幹が揺るが
される状況にあることか
ら**採択**とすることで意見
の一致を見ました。



対策が望まれる善応寺溜池

指定管理者制度の活用を検討しているもの

□ 九重

文化センター

□ 活きいきランド

□ 九重町温泉館

□ 図書館

□ 九重

ふるさと館

□ 九重グリーン

パーク

指定管理者

制度とは

公の施設の管理を法人、その他の団体が行うことができる制度です。

公の施設とは

公園、運動場、体育館、道路、図書館、公民館、博物館、美術館、病院、公営住宅、保護施設、保育所、などが主なものです。

民間委託・民営化を検討しているもの

□ 幼稚園・保育所

□ 給食センター

□ 農業バイオセンター



どうなる給食センター

意見書提出

- 道路特定財源の確保を求める意見書
- 日出生台での米海兵隊の実弾砲撃訓練に関する意見書
- 義務教育費国庫負担制度の堅持及び次期定数改善計画の実施を求める意見書

私の一般質問

3月20日に7名が質問しました。質問と答弁の内容を要約してお知らせします。

佐藤 博美



職員採用は 町民を

問 昨年、今年と6名ずつ採用しているが、就労の場が町内で限られているという点や、今後自律推進計画の中で「行政区担当職員制」を行い、職員がパイプ役となり住民一体となった町づくりをする。その為にも職員採用は町民を最優先で行うべきではないか。

公平・公正 資質を見て

答 今年の場合、6名の募集に10倍の応募があり、一次試験は県下統一の学科試験、二次試験は作文、集団討論、最終的に面接

を行って採用を決定している。試験官になった人も町内者をという気持ちを含みながら、公平・公正な立場で公務員としての資質を見て採用している。

緊急時の 夜間診療を

問 今郡内では夜間診療をしてもらえず、緊急な時は日田が大部分で行かなければならない。緊急

時の夜間診療が郡内で出来る様にならないか。

関係機関と 協議を続ける

答 平成16年に玖珠保健所の音頭で、玖珠郡の医師会と両町の担当課で協議を続けてきたが、結果としてまとまらなかった。今後とも関係機関に働きかけ、夜間体制の当番医制について努力していく。



町民の採用が期待される役場

農業の 長期ビジョンは

問 農業を取り巻く状況は厳しいが、こんな時こそ、国・県に振り回されずに町として、20年後を考えた「九重町農業の将来ビジョン」を作るべきであると思うが、今後の方向性はどうか。

答 農業をベースにしながら自然と共生する農業を町民の相対的な知恵を集める中で進めて行きたい。又、認定農業者を中心とした担い手育成と農地を守るために集落営農の組織づくりを進めて行きたい。

食育 どう取り組む

問 子ども達に食べる事の大切さをもっと伝える事が必要ではないか。町内にあるグリーンツーリズムの会と一緒に農業体験を通して、食べる事や命の教育を今こそ子ども達にすべきと思うが、現在の取り組みは。

重要な課題

答 食育の推進は教育行政の中で重要な課題であり、学校教育においても児童、生徒が望ましい食習慣を身につける食育を推進して行きたい。



19年開校予定の自然学校開校準備室

ブロードバンドの整備は

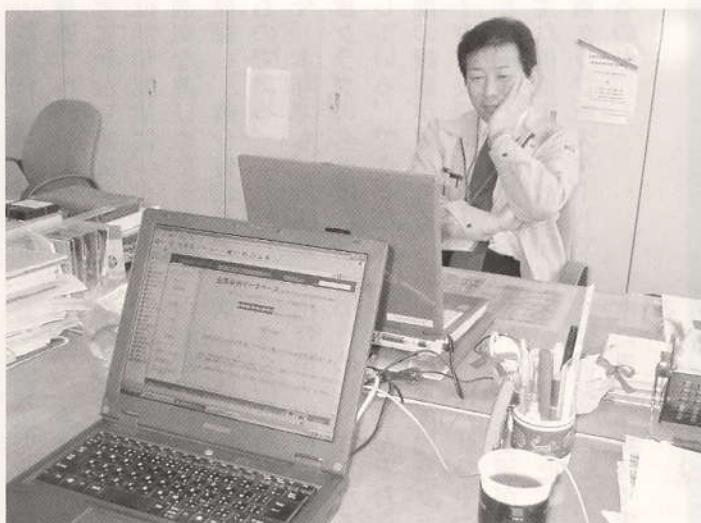
町長／早急に整備したいが…



小川 克己

問 ブロードバンド基盤の整備は必要不可欠となったが、地方では採算性の面で民間が投資しにくい状況にある。九重町は県内で唯一ブロードバンドが利用できない地域となったが、町民の多くが情報や文字、映像等のデーターのやりとりを切望している。町としては今後の考え方と導入のスケジュール、未整備に伴う経済格差、電子入札の対応等について伺いたい。

答 ブロードバンドの必要性は十分認識しているので早急に整備したいと思っているが、起債や補助事業等の関係もあり19年度開業に向け努力したい。経済格差については、1世帯あたり年間約2百15万円位あると試算している。電子入札については県が本年4月から先行開始し、本町は10月以降試行運用し19年度より本格運用を考えている。4年後の全自治体すべての公共事業の導入目標に向かって努力したい。



全町内に早期開設が望まれるブロードバンド

国民保護計画の策定は

問 国民保護法の成立を受けて、市町村は国民保護計画を18年度内に作成しなければならない。武力攻撃からの国民の生命、身体及び財産を保護することや避難や対処の仕方等を通じ武力攻撃が国民生活及び経済に与える影響が最小となる制度にしなければならない。そこで九重町における国民保護計画の趣旨並びに作成スケジュールを伺いたい。

今年中に策定したい

答 4月に町の保護協議会、それから国民保護対策本部、緊急対処事態対策本部を開催し、さらに庁舎内で連絡会議を持ち、12月までに計画を策定し、来年3月議会に提案したい。

地域包括支援センター設置は

問 介護保険制度の見直しに伴い、予防重視型システムへの転換となり、本年4月から地域包括支援センターを整備し、軽度要介護者に関するケアマネジメントやサービス給付のあり方を総体的に予防しなければならない。今後は保健師や社会福祉士と、ケアマネージャー等の増加を図る必要があるが、今後の体制整備を

予防医療の充実に努力

答 国保会計も介護会計もどこもパンク状態で地域包括支援センターを4月より設置し、保健師や社会福祉士、ケアマネージャーの専門職を配置し運営を考えている。今年は臨時対応するが、今後はセンターの動向を見ながら保健師をどうするか考えたいし、予防医療の充実に努力したい。

伺いたい。



予防重視となる介護

放課後児童クラブ(学童保育)は 19年度から実施できるか

町長／まずモデル地区で実施する



井上里子

問 17年度に町内4つの「こども園」に在籍した4才児、5才児153名の内、幼稚園が終わったあと夕方まで保育を受けていた園児は60名で、全体の約40%になる。この園児達の保護者の多くは、仕事等のため昼間に居ない。子どもが小学校に入学すると学校から早く帰宅するので、夕方まで安心して過ごさせる場の確保が悩みである。

答 次世代育成支援センターの設置は、町内に一か所、既存の公共施設の有効活用を考えている。子育て支援センターは、放課後児童クラブの運営が主な業務で、まずモデル地区一か所に設置する。

問 次世代育成支援センター及び子育て支援センターの19年度設置を目指して、18年度は具体的な準備を進めると、施政方針に示されている。

2つの支援センターの設置について、おおまかな構想を聞きたい。

問 放課後児童クラブ(学童保育)は、昼間保護者が家に居ない家庭の小学校低学年児童に、夕方まで適切な遊びや生活の場を確保し、健全育成を図るものである。

今、本町でも、放課後児童クラブの必要度は増大している。できるだけ早期の設置が望まれる。

子育て支援センターの19年度開設と同時に、その主な機能である放課後児童クラブもスタートできるのか。

答 放課後児童クラブについて、地区別にPTAや学校関係者に出席してもらい、その要望があるのか無いのかを含めて、話し合いを行った。

多くの保護者が、少子化対策や児童の安全確保のために、さらなる子育て支援を望んでおられるし、放課後児童クラブについては、ぜひやってほしいという要望が強いことが確認できた。18年度を準備期間として、19年度にモデル地区で実施する。



こども園で、園児は夕方まで安心して過ごせる

町づくりに壮年層の力を

問 自律推進計画(成案)についての町づくり懇談会が、2月に9か所で開催されたが、壮年層(30代・50代)の出席者はわずかであった。40代の出席者から、「町づくり懇談会やタウンミーティングに、30代、40代の出席者が大変少ない。もっと多く出席するような会にしたい」という要望があった。

これからの町づくりは、

やはり壮年層が中心になって、それを年配者がサポートしていく態勢で進めることが重要だと思う。今後町づくり懇談会等は、壮年層が多く出席するような会の持ち方を工夫すべきであり、出前懇談会も、要請が無くても町の方から積極的に機会をとらえて、青壮年層の会合に向いて懇談することが必要ではないか。今後の取り組みをお聞きする。

働きかけていく

答 2月の町づくり懇談会は、いつものことだが出席者は戸主が主で、壮年層や女性は少なかった。先般、女性セミナーの後、1時間程度、私がいろんな話をした。できるだけこういう組織を通じて話をしていきたい。

出前講座、出前懇談会等についても、課長会で議論をし、どういうものができるか、今、出させているので、それができたら、(壮年層等の)団体

に働きかけて、積極的に出て行くようにする。

私どもは、そういう団体や地域に出て行きたいが、今、町づくりに関心を持つ人が、どちらかといえは少ない状況である。協働の町づくりなので、町民の皆さんと一緒に、自助・共助・公助を徹底するよう努めていきたい。



国体成功とスポーツ振興は

町長／観光PRのチャンス



梅木 征治

問 スポーツは第二の観光と言われる。スポーツの振興は観光、行政のいきづまりの打開策として期待がもたれる。国体は九重町を全国にPRする良い機会であり、訪れる人に良い印象を与えるための整備が必要では。九重町の環境を生かしたスポーツ振興は将来の町づくりに必要なである。これを支える人材の育成にスポーツ枠の職員の採用を。

答 国体を通じて観光地である町をPRするチャンスであり、美しい景観づくりのための新年度予算も計上している。国体が開催される9月から10月に小菊・コスモス等の花を会場周辺や沿道等を整備していこうと計画中である。

小規模町村では、スポーツ枠の採用は難しいが、一次試験で通って面接等での参考用件にはなる。



鳴子川大吊り橋の完成、観光振興にどう生かす

問 鳴子川大吊り橋の完成は、多くの観光客が訪れると予想されるが、ただ大吊り橋の観光のみでなく、九重町の観光、農業振興にどうつながるか、又入園料や駐車料金の考え方は。九重町の特産を生かした、食材の提供と直販、観光地周遊コースの設定（自家用車御免コース）、バスで、どこで乗っても、どこで降りても低料金、一日OK。風呂も一回OK。滞在時間の延長につながるのでは。（将来は通学、福祉バスの利用も可能）。相乗効果は、まず我が町の取り組みを。

物産直販所、指定管理者制度を取り入れ

答 事業計画の中で過疎債、地域再生事業債の申請の段階で、入場料は500円予定している。駐車料金については、再度検討が必要。物産直販所については、指定管理者制度を取り入れ、地域活性化につなげたい。



着々と進む大吊り橋の工事

危機管理！どう取り組み

問 武力攻撃、事件、地震、自然災害、テロや感染症、噴火等、町民の生命、身体、財産の安全確保は万全か？ 災害の被害の大小は、地域のコミュニティケーションの度合いで異なると言われる。九重町は、鳥インフルエンザ、風水害等の経験を踏まえて、住民防災体制（後方支援対策）が必要なのは。又職業別、業種別を進める。

安全対策 万全を期す

答 町も危機管理町民安全室を立ち上げ、町民の安全対策に万全を期す所である。後方支援についても、安全室で十分検討を進める。



吊り橋駐車場付近に建設中の管理棟

自律の町づくりと観光振興

町長／町民の皆さんと共に！



安部 武己

- 問** 我が町は、自ら自律の道を選び、自己決定、自己責任の原点に立ち、今後の町づくりに取り組むべき。自律計画を立て「絵に描いた餅」にならぬ様、実行しなければならぬ。実施に当たっては「自助、共助、公助」に基づき、広く町民の声を聞く様。
- 答** 自律の町づくりを進めるに当たっては、町づくり委員等の意見を聞き、実行に移して行く。
- やる気！**
- 問** 組織の再編については、今後、職員減の中、効率的な見直しが必要で、かつやる気を起こす組織が大事だ。
- 考慮する！**
- 答** 組織の再編については、職員のやる気をなくさぬ様に考慮する。



指定管理者制度が検討される、ふるさと館

指定管理者制度は！

問 町施設の管理運営について、国は『民間で出来ることは民間で』と15年9月に、指定管理者制度が創設され、管理委託は18年9月までに指定管理者制度に移行となり、ふるさと館や数多くの物件が民間委託、民営化の対象物件となる。経費削減のため、すみやかに移行すべきだ。

順次移行！

答 指定管理者制度は、出来るものから順次移行して行く。民間委託、民営化も検討していく。

吊り橋、収入増の時は！

問 観光振興で、鳴子川大吊り橋の完成を迎え、観光客の増加に大きな期待を抱いている。町の計画では、1億円を公債費の償還に、もし予想を大幅に超える収入があがり、2億円突破の時は、2億円を超えた額は、リピー

色々出来る

答 観光面では、大吊り橋完成を見据え、宣伝活動に努める。又より多くの観光客が訪れ、予定の2倍以上の収入がある時は、そのようなことも考えたい。

ター確保、又観光、環境の整備、地域の活性化に充当を。



吊り橋に通じる県道バイパス

国体の準備は!!

町長／グラウンド内、人工芝に



麻生盛高



ナイター施設の存続が望まれる

問 スポーツ振興について、今後のナイター施設の存続は、4地区のナイター施設も昭和50年頃設置され、既に老朽化して来ており、今後の対策をどのように考えているか。

又、二巡目国体のホッケー会場は、これから準備を進めて行くと思うが、国体の会場とあつて多くの人が観覧すると思う。人工芝だけで良いものか、又観覧席などどのように考えているか。又今後、多目的グラウンドとして、どのような運営方法をされるのか伺いたい。これからのスポーツ振興につ

いても、少子高齢化が進み人口の減少で大変厳しい状況になると思うが、町としてどのような取り組みをして行くか。又総合型地域スポーツクラブについて、4点程聞きたい。①現在設立している市町村の数 ②どのような型で進んでいるか ③準備期間は ④運営方法 財源は

答 老朽化して来ており、修理の方も多くなつて来たが、今後は取り壊す事はないが、今すぐではない、ゲートボール等出来る照明にはしたいと考える

ている。又野球場でソフトボールが出来ないか検討したい。二巡目国体については、平成18年6月から11月の間に多目的グラウンド内に人工芝にし、観覧席等はネットを張り、危険のないよう配慮し、終了後もそのまま管理をして行く。

総合型スポーツクラブ については、今後体協、スポーツ団体等と協力し、

これからの九重町を背負う青少年スポーツの育成の手助けを行っていき、将来的には子どもから高齢者、初心者、トップレベルの者まで、いつでも活動出来る健康な町づくりを目指して行きたい。現在の設立市町村は、約55%、平成22年度までに育成したいし、体育指導委員を核に取り組んで行きたい。

学校統合は

問 年々生徒数が減少して行く中、このままで良いのか。子ども達の将来を考えた場合、早期に結論を出す必要があるのか。

統合、検討中

はないかと思うが、どのようにお考えか。

答 現在、小学校、中学校の統合計画の学校再編検討委員会を設置し、研究、視察等実施しながら調査中である。学力の問題、地域に学校を残す為

の小中一貫校、小規模校の良、否等いろんな事を視野に入れ、今後10回位委員会を開催しながら、9月頃までに答申をいただき、それをもとに方針を決めて行くことになっており、今後具体化する予定である。



二巡目の大分国体でホッケー会場となる多目的グラウンド

どうする『相談窓口』

町長／関係課、連携をとる



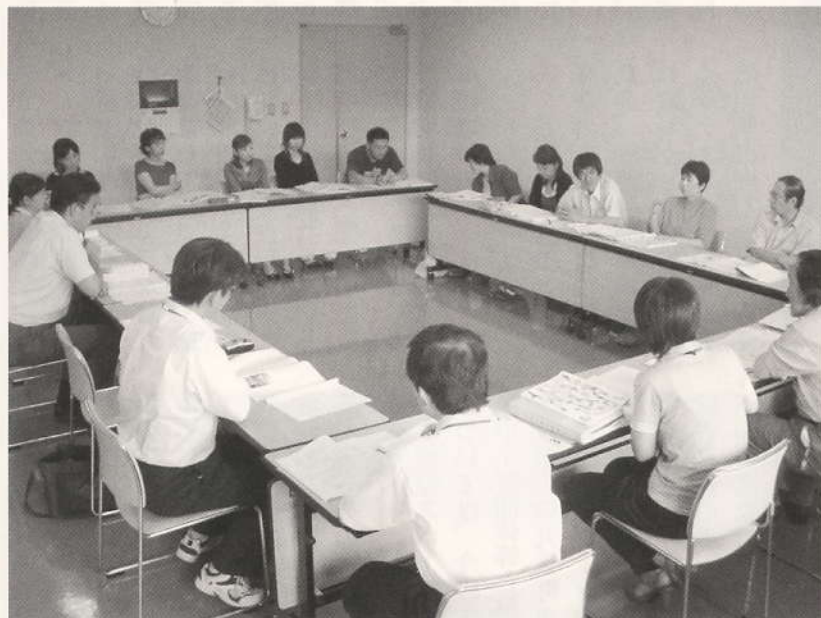
江藤 一幸

問 今年2月に要保護児童対策地域協議会が設置されたが、地域から情報が入ってこない組織が機能しない。ささいな情報でも風通し良く入ってくる仕組みが今後の課題だがどうする。

答 法に基づいた協議会で虐待等の相談受付窓口が、県から市町村に移った事により設置した。民生委員や各種団体、関係機関の皆さん方からの情報提供が大事だと考える。

隣保館では、人権侵害救済について、相談しやすい体制を整えて行く。

又、DVやセクハラ、高齢者虐待等々については、隣保館が機能を担うとあるが、相談窓口をどう取り組むのか。



多くの情報がほしい、要保護児童対策地域協議会

高校教育の議論は

問 過去、高校教育について質問した。その時、小国高校や大野町へ教育委員で、調査・研究をされたらと提案したが、その後どうしたか。

又、隣町と高校教育の火を消さないための協議は、されているのか。

検討会を開催したい

答 小国高校の調査はしていない。教育委員に話題は出したが、協議はしていない。

玖珠との協議は、実際にはまだやっていない。

今後、郡内教育関係者と検討会を開催したいと考えている。

光ファイバー新設

約15億円必要だ

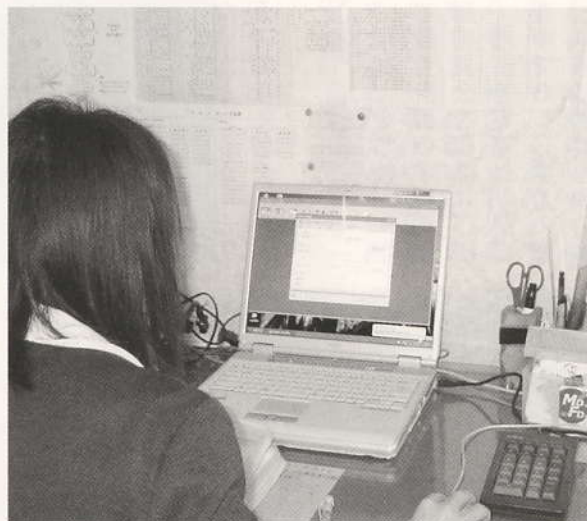
問 2年前に、NTTと契約して光を引いたが、今年約2億円かけて、新たに町単独で学校や公民館等公共施設へ役場から引く。

今後全町的に光を張りめぐらすため、6〜7億円、さらにCATV機能を持たせるとどのくらい必要か。

町民は期待している。優良な町の現状を維持しながらブロードバンド化を進めていただきたい。

答 公共施設のインフラ整備で約2億円予算計上している。19年度以降の見込みだが、ブロードバンド整備事業が6〜7億円程度、CATVの映像配信が6億円程度で、全てで約15億円程度と予測している。

県・国とも協議し、出来るだけいい補助制度、起債等を利用して対応したいと考えている。



ブロードバンドを早く

与えられた 物と生かす

東飯田(上旦)

後藤久美子さん



都会の生活は便利です。たくさんのお店が立ち並び、電車は数分おきに走りまわります。駅に滑り込む電車には、いつもたくさんの方が乗り込み、高層ビルの谷間を走っています。しかし、目にする景色の中に緑の木々も田園もありません。ただ、窓のあるコンクリートの中を走り続けている様です。

田舎の生活は不便です。数分おきに走る電車もバスもありません。隣が遠く回覧板も車に乗って持つて行きます。スーパードも職場もマイカーなしでは

行けません。維持費もかかります。でも私達の目にする風景は、自然がパノラマで、いつも季節を感じます。春先に立ち昇る野焼の煙、青々と茂る木々や草花、水の流れ、九重の自然に私達は包まれています。

この大自然の中で育ち、夢をかなえる為に、大阪に就職した娘も、帰省をとても楽しみにしています。



雄大な九重の自然

さらなる

郷土愛を

南山田(引治)

小田原克也さん



私は今、玖珠のマルシヨクの中でカメラ店と花屋を営んでいます。自営業を始めて7年になりました。開業当初の目標の一つの「人材の確保」について大変悩んだ時期がありました。

他のメンバーの深い意見や角度の違った考えなどたくさん参考になりました。さらに、先進地視察に行かせて頂いた時は、それぞれの町を愛する素晴らしい「人材群」にふれ、九重町への郷土愛をかきたてられました。

特別な事をする訳ではなく自分の今生活している場を最大限に楽しみ、そのエネルギーを他の人なり地域に還元しようと強く思い行動している人に魅力を感じ、できればそこを目指したいと考えているところです。



町づくり会議

わたしの ひとこと

す。帰りたいふる里は、娘に元気を与え充電してくれそうです。高齢化社会、少子化問題など世の中の変化は、私達にはどうする事もできません。しかし、ここにある自然は、帰省する人にも訪れる人の心をも癒してくれるオアシスであると思っています。それは、町にとつての最大の魅力ではないでしょうか。

こんな町にしたい

一人にしないで！

南山田小学校6年

武石 梨花さん



お年寄りが増え、家族とはなれてくらしでいて、とてもさみしそうです。うちの親せきのおばあちゃんは、老人ホームにいて家族が行くと、喜んでくれます。私は、「かわいそうだな。」と思いました。私は、「親せきのおばあちゃんをうちにつれてきたいな。」と思いました。が、やっぱり老人ホームからつれてくるのは無理でした。

ある日、親せきのおばあちゃんが、「りかちゃん、老人ホームで歌ってくれる。」

議員リレー

随想

43

20年を省みて



安部 武己

昭和62年議員になり、当時は高倉町長で、今と同じく行財政改革で、今以上に町民に負担をかける支所廃止や消防団の定員削減等々厳しい時代でした。交通体系は遅れ、町舎は木造で古く、冷暖房などは無く、投資的財源はなく、町有地売却等で債務の償還につとめた時で、町道用地等は今より、学校用地まで地元提

供でした。時はちょうどバブルの最中、九重町はなにもせず、債務の償還と基金積立に努めてまいりました。そしてバブルがはじけ、デフレ不況に入る時、町舎の建設、活いきランド、福祉センター、文化会館等、比較的割安で建設する事ができ、今思うと、全く時を得た政策でした。この20年前の改革が今日の九重町を

私は、歌が大好きだったので喜んでやりました。私は、えん歌の方がおばあちゃん達は喜ぶから、毎日練習しました。本番は、きん張しました。「よし、喜んでもらうぞ。」歌い始めるとパチパチはく手が聞こえてきてうれしかったです。歌い終わって、また、パチパチと聞こえてきてなみだがこぼれそうになりました。本当に良かったです。

私は、老人ホームにいる人達は、さみしそうですから、少しでもさみしさがなくなる様におどったり、歌ったりしてお年寄りの人達に喜んでもらいたいです。そして、



梨花ちゃんの訪問に喜ぶ亀鶴園入居者の皆さん

私の歌やおどりを見てもいい、いつまでも、笑顔でいてほしいです。お年寄りの人が喜ぶような活動をすれば、さみしい人が少なくなるので、その様な活動をしていく人達が少しでも増えるとうれしいです。

支え、自律の町へと進んでいます。

今後は将来に向け夢のある、小さくともキラリと光る町九重、鳴子川の大吊り橋も完成間近です。この世界一になるうかという橋を充分活用し、観光と農業を組み合わせ知恵を絞り、地域の活性化を計り、住み良いいふる里になるよう念じております。

編集後記



桜がほころび新年度を迎える。自律の町づくりへ、ますます邁進しなければならぬ。

4月より介護保険制度が改正になる。介護予防や地域ケアに重点がおかれ、これを推進するために九重町も地域包括支援センターが設置される。これ以上の介護保険料の上昇を抑えるためにも、予防と健康づくりの重要性を痛感する次第である。

本年10月下旬には、建設中の鳴子川大吊り橋が完成するが、町内の各業種の浮揚の起爆剤になってくれればと願っている。M・T

